

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年3月10日(金)

# みんなの居場所

## 強歩会

### 感想募集集中！

先日の強歩会では大変お世話になりました。何人かの保護者の方から、「感動した。」「とか」来年も参加します。」「等の声がかかれば、嬉しく思っているところです。同じ方向に向かってみなで協働する。ことの楽しさが感じられた行事だったと思います。私の教え子達もサポーターとして参加させて頂きましたが、それぞれ「久しぶりの感動」を味わいましたと言っています。

この行事の良い所は、お金では買えない大きな宝物を得ることです。参加した人たちの達成感や充実感が言葉では言い表せません。そして、今回は参加したくても参加できなかった仲間がいることも寂しくないで欲しいと思います。

さて、行事は終わりましたが、振り返りは大変重要です。そこで、参加された児童、保護者の皆さんに感想を募集しています。既に多くの参加者から感想が寄せられており、途中の苦しさや「ゴールした時の達成感、仲間との貴重な時間等々」についての文章は、読んでいて涙が出そうになるものばかりです。今後、「みんなの居場所」を「みんなの居場所」で紹介させて頂きたくので、記憶や心の中の思い出を是非取り出して頂きたいです。

## 私の中学時代 校則

中学校に進んで、生徒手帳という身分証明書を持ちます。(今もあつたのでよかったです)私の主人は、中学時代の生徒手帳は残っていませんが、高校時代の生徒手帳が残っています。改めて眺めてみると、まあ凄く規則が並んでいました。半ば笑ってしまつたもので。中学時代の生徒手帳には、生徒規則、いわゆる校則が書いてあったのですが、その中で印象に残っているのは、「外出時は保護者同伴とし、制服を着用する」と「17時かねえ。まず両親と外出する時は食事や親戚などにいってかきかあるませたことだね。今考えると、本当に必要だったのかと思つ規則ですが、今だからいふ校則は事務的に思つた。子供達は「なま田田」だの「なま田」だの、規則があるのか、「と疑問に思つ場面もあるのですが、私達は「ま、規則を守らなさい」と指導します。それはなぜか。中学校に行くと生徒会活動があり、その活動も学校時代の児童会活動より充実してきます。例えば、学校全体に関わるような校則の問題について、生徒総会等で話し合いを持ち、きつたことした手続を踏めば改正するようになります。校則は、先輩方が長い時間をかけて、中学校の自治的組織を担った結果なのです。だから「なま田」はダメなものです。それでは、時代によって変わってきたものについて、生徒が話し合いをして変えていけるのです。問題は校則に従おうとせず、

その良い方向に向かおうと自治的集団や、自分のわがままや、自己中心的な考え、にやみに妨害してしまつた者の存在です。子供達は校則を守るという行為、社会的な責任やチャンスのことです。それは、自分と他人との関係や、守らなければならない、その大切さを学ぶ機会になります。

私が校則を守っていたかどうかわからないので、私は規則で縛られたという思いはあせませ。与えられた枠の中で、自分に個性を発揮したという気がしています。どうしても規則の範囲を背伸びする気か？そんなことばかり考えていたような感じがします。そこにも創意工夫がある訳です。そんな土未すり感じになり子供達もいますね。何度か、校則に関するイベント、体育教育館で開催された、生徒会活動の振り返り、振り返りをする中、

## シリーズ「自分を語る」#78

この女の子は不規則な生活やストリスで、やはり歩くのは苦しいです。でも、何度聞いても「絶対」に歩く、「と聞きます。私達も車に乗せてあげて考えていまして、同じ班のメンバーが常に声掛けをしていました。絶対に全員が歩き通すように、と聞いています。放つておいても歩き通すので、ナイトハイクは日が昇ってしまつて極端に体力を消耗します。女の子の子を大人がサポートすることになりました。私と教え子が両脇を抱え歩くようにしたので、その甲斐あってか、何とか午前8時過ぎには伊倉小学校に全員到着しました。当時の熊本朝日新聞の記事「この時私達が両脇を抱えて歩いた女の子が写真で写っています。

この女の子は、既に成人しました。当時、6年生になつてから、家庭の事情で引っ越してしまいましたが、同級生からの情報によると、11月2日に引っ越してきて、今でも、ナイトハイクの話が聞かれます。さて、伊倉小学校では、高学年担任、持ち手になりなかつたことだったので、学年が早期に落ち書いたので、6年生で5年生中澤田の影響を受けているので、なにか、私は持ち手になり担任を任せたり頂く事になりました。6年生を担任する頃には、年度末に卒業という節目を迎えることになりました。分かっていても、辛いものがあり、だからこその悔いの残らないようにしたいと思つています。

そのクラスには、場面観察のあつた方がいました。ちなみに現在、歳バラバラの現役保育士、今では普通に私と会話が出来ます。一昨年は結婚して子供を産みました。その子の卒業式に向けての取組は、1年です。私は、その子の「困り」を卒業式の取組を聞いていたことがありました。私の意識の中に「病気がたから仕方がない」という気持ちがあり、何とかしたかったのかもしよせ。そのうち、6年生の3学期、卒業式の練習が始まりました。学校では、誰かを拜するものが無いという事は、保護者の方も知っていました。家庭には問題な話や、いろいろな話も聞かれました。その私のお父さんに「聞いてみました。」「卒業式はもう済みますか？」「お父さんは、聞いてみました。」「卒業式はもう済みますか？」「聞いてみました。」「半信半疑でした。それまで、担任、管理職、養護教諭等と何度も話をもち、それをも改善されたので、その時の養護教諭は、無理して声を拜するようになって本人に苦痛以外の何物でもないという見解でした。他の職員も「場面観察」というシッテルに、本当に必要なことを見失っていたのかも知れません。

ある日、お父さんからの連絡がありました。「先生、次の卒業式の練習の時刻を教えてください。俺が忘れません。」「父親としての責任を養育に果たされた荒療治開始です。(笑)(笑)